

かせやま
鹿背山元気プロジェクトの森づくりガイドブック

千年の里山をつくろう

三諸（みもろ）つく

鹿背山（かせやま）のまに

咲く花の色めずらしく

百鳥（ももとり）の

声なつかしき

ありが欲し

住みよき里の

荒るらく惜しも

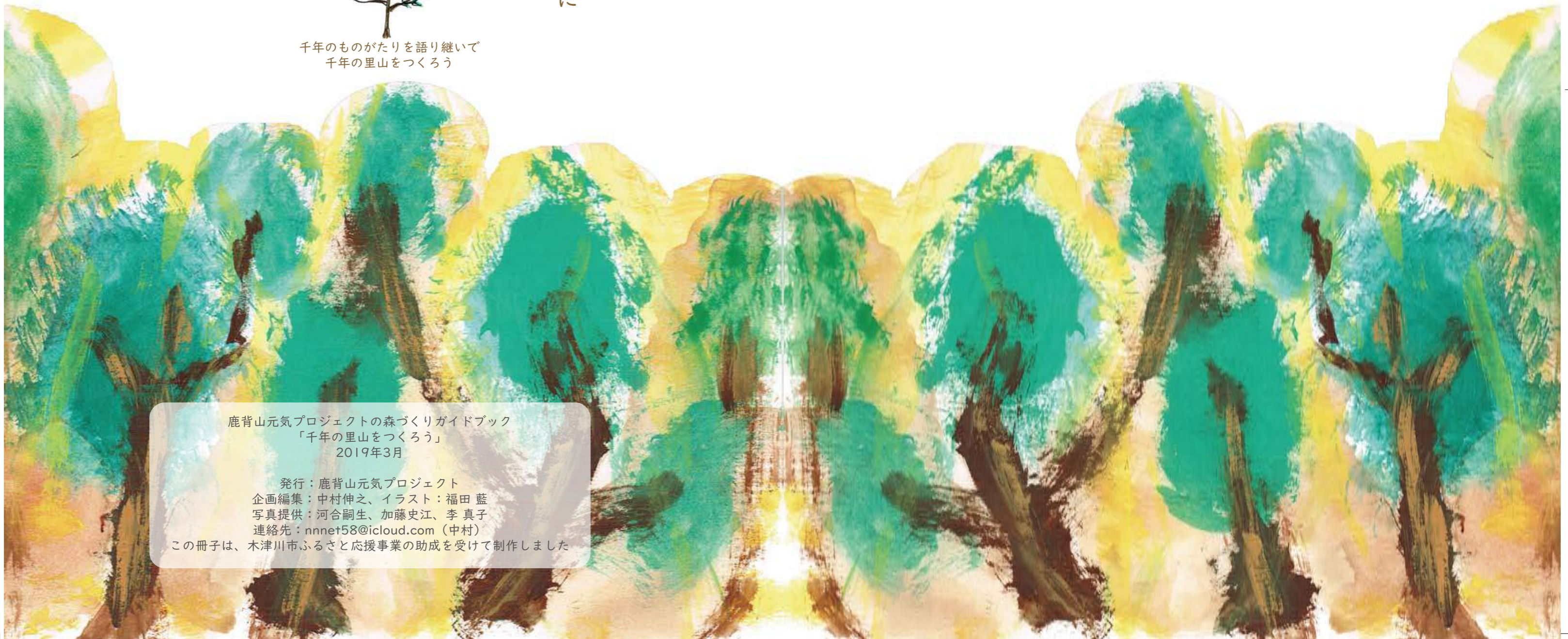
（万葉集）



千年のものがたりを語り継いで
千年の里山をつくろう

鹿背山元気プロジェクトの森づくりガイドブック
「千年の里山をつくろう」
2019年3月

発行：鹿背山元気プロジェクト
企画編集：中村伸之、イラスト：福田 藍
写真提供：河合嗣生、加藤史江、李 真子
連絡先：nnnet58@icloud.com（中村）
この冊子は、木津川市ふるさと応援事業の助成を受けて制作しました



かせやまの森へようこそ

ここは「みもろつく鹿背山」と万葉集にうたわれた森です。かつてはため池や棚田や畑がつくられ、木々は切られて日々の燃料として村に運ばれていました。そのように手入れされた森にはたくさんの生きものがすんでいました。

やがて人々の暮らしは大きく変わり、里山は利用されずに荒れてゆきました。茂りすぎた木々は森を暗くして、生きものがすみにくい環境になりました。牛が柴を運んだ道や丘の上の畑は、草や木の中に埋もれてしまいました。

鹿背山元気プロジェクトは2007年から森の手入れを始めました。茂りすぎた木を切って、明るい森をつくりました。昔の道を探して歩けるように切り開きました。ササに埋もれた柿畑を再生して「みんなの庭」をつくりました。そして、生まれ変わった里山で小学校の総合学習が行われました。

世代を超えて里山が受け継がれるように、私たちが見つけた生きものの魅力や、眺めの良い場所を切り開いたことや、子どもたちと作品づくりをしたことなどをお伝えします。

さまざまな生きものや風景の物語が、万葉集の歌とともに語り継がれ、かせやまの森は「千年の里山」となるでしょう。



茂りすぎた暗い森



ムラサキシジミ



コバノミツバツツジの花



オオタカ



ウワミズザクラの花



ノコギリクワガタ



ルリビタキ



クロバイの花



カスミサンショウウオ



フクロウ



コバノガマズミの実



スッポンタケ

明るい森に戻ってきた生きものたち

生物多様性の危機

人間活動の影響で地球上の種の絶滅のスピードは自然状態の約100~1,000倍にも達し、たくさんの生きものたちが絶滅の危機に瀕しています。その中で、日本の生物多様性は4つの危機にさらされています。

■第1の危機

乱獲・過剰な採取や埋め立てなどの開発によって生息環境が悪化し、破壊されます。

■第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の劣化。里山林や草地在り利用されなくなると、生態系のバランスが崩れます。

■第3の危機

外来種などの持ち込みで、在来種を捕食されたり、生息場所を奪われたり、同種内で交雑したりします。

■第4の危機

地球温暖化で、動植物の20~30%の絶滅リスクが高まるといわれています。



宝物をさがして名所をつくろう

山の中で見つけた不思議な場所、へんてこな岩、誰も知らなかった秘密のサクラ、切りひらいた眺めの広場とそこから見る夕陽。里山には宝物がたくさん埋まっています。宝物を見つけて、名前をつけて、まわりの木を切って道をつなげました。子どもたちとゲートをつくったり、地名札をつくったりして、歩きやすい道をつくっています。

里山回遊空間づくりにはまだまだ時間がかかりますが、人の手が加わった風景には親しみが生まれて、まるで山が庭になったように楽しく巡ることができます。ひとびとが歩くことで道がかたまり、里山も育つのです。



大きな岩に彫られたお地藏さん



四角く切り出された岩



大きな木に登って伐採します



サメの頭?の形をした「ジョーズ君岩」



枝を組んで「森のゲート」をつくった



布団をたんだような「ふとん岩」



森の中にもれていた「トンガリ岩」



生駒山に沈む夕陽



坂の入り口にある「ゲート岩」



生駒山を眺めるサクラ広場と地名札



誰も知らなかった「秘密のサクラ」



道ばたの神様



「森の案内板」



「玉ねぎ岩のサクラ広場」

みんなの庭をつくろう

長年ほったらかしでササや木におおわれていましたが、ここは昔、柿やお茶の畑でした。

なだらかな南向きの斜面のササを刈ってゆくと、中からお茶の木が現れました。長い間、ササに埋もれていたのです。陽が当たり始めた地面からはいろいろな芽が出てきました。眠っていたドングリが目覚まして、コナラの葉っぱ（実生）が出てきました。それを観察した子どもたちは「森がどうやってできるのか分かりました」と感想文を書いてくれました。

小さな実生の葉っぱを切らないように、エンジンの草刈り機を使わずに、選りながらハサミで草刈りをしています。自然に生えてくる木を育てて、大きくしたり、小学校に移植したりします。野菜や果樹も植えました。

竹を切って、木陰に休憩舎を、丘の上に茶室をつくりました。日陰になっていた池に陽を当てようと、まわりの木を切っています。人間にとって気持ちのいい風景の庭は、生きものにとっても暮らしやすい場所になるでしょう。



ササで覆われた畑を切り開きました



伐採した木を並べて遠路をつくりました



竹を組んで休憩舎をつくりました



ため池もあります



紙すきのワークショップをしました



じっくり手作業で草刈ります



ため池の枯れ枝をそうじします



城山台小学校の里山授業



茶室でのお茶会

みもろつく鹿背山再生プラン

生物多様性が深刻な危機にあるため、2011年に環境省のリードで「生物多様性地域連携促進法」が策定されました。木津川市は同法に基づいて、ニュータウン開発が中止となった関西学研都市の木津北地区を対象に「みもろつく鹿背山再生プラン」（地域連携保全活動計画、2014年）を策定しました。

鹿背山元気プロジェクトなどの活動団体はプランを実施する「木津川市地域連携保全活動応援団」を立ち上げ、作業道を整備する共同作業、市民の皆さんを対象とした行事のサポート、整備計画の協議を行っています。



ドングリが芽をだしたコナラの実生

学校に里山をつくろう

鹿背山元気プロジェクトは、城山台小学校が進める「城山台里山プロジェクト」を応援しています。「小学校を人と豊かな自然が共存する空間にする活動をとおして、児童・保護者・地域住民のつながりをつくる」ことを目的にしたプロジェクトです。

子どもたちと一緒に、里山の木や土や落ち葉を校庭の池の周りに移しました。スギの木を切って橋もつくりました。池にはいろんな虫や鳥がやってきます。子どもたちはそれを記録し続けています。

田んぼの土をもらってきて、校庭にも田んぼをつくりました。斜面を削って石積みを積んで棚田の地形をつくりました。お米の作り方を農家の方に教わって、秋には立派なお米ができました。

里山の自然観察をして、まちなかの自然を比べる自由研究をしました。里山のサクラ広場の地名札もつくってもらいました。

体験して自分の頭で考えることで学びが深くなり、里山の生態系サービスを活かしたまちづくりへと発展するでしょう。



生態系サービスとは

生態系が人類に与える恵みを表し尊重するために「生態系サービス」という概念が生まれました。それは次の4つに分類されます。

- 供給サービス
 - 食料、水、燃料や原材料（繊維など）、遺伝子資源、薬用・生化学資源、観賞用資源の供給
- 調整サービス
 - 大気や都市環境の質の調整、気候の調整、災害の緩和、土壌浸食の抑制、地力維持・栄養循環、花粉媒介
- 生息・生息地サービス
 - 生息・生育環境の提供、遺伝子的多様性の維持
- 文化的サービス
 - 自然景観、レクリエーションや観光、文化のインスピレーション、芸術とデザイン、神秘体験、科学や教育



里山で自然観察の授業をしました



里山の土や落ち葉を校庭にまきました



里山の木を移植しました



サクラ広場の地名札をみんなでつくりました



田んぼの稲が大きく育ちました



どんな里山をつくるかを、みんなで相談しました